

大学防災(地震・水害など) マニュアル

名古屋文理大学

災害(地震・水害など)に対する備え

日頃の準備として『**必要な備え**』

- ✚ 自宅周辺の**避難場所**及び**ハザードマップ**の確認。
- ✚ 自宅での**備蓄**や**防災グッズ**（**災害持出袋等**）の準備。
- ✚ **転倒防止対策**の確認。
- ✚ 家族との**連絡方法**と**待ち合わせ場所**の確認。
- ✚ **災害用伝言サービス**の確認。（事前登録が必要）
- ✚ **本学及び友人等への連絡方法**の確認。（リスト整備）
- ✚ **帰宅ルート**と**所要時間**の確認。（災害時徒歩約 2.5km/h）
- ✚ **緊急時メモ**の作成・記入。
- ✚ **情報収集手段**及び**緊急避難場所等**の確認。
（学内および通学途中を想定）

災害時に必要となる備品等

➤ 災害発生時に役立つもの

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 携帯電話 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ・テレビ |
| <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー | <input type="checkbox"/> 手袋・スリッパ |
| <input type="checkbox"/> 防災ずきん | <input type="checkbox"/> ヘルメット |
| <input type="checkbox"/> 防寒具 | <input type="checkbox"/> 雨具 |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯・電池式ランタン | <input type="checkbox"/> ハンドマイク・ホイッスル |

➤ 生活に役立つもの

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 食料 |
| <input type="checkbox"/> 毛布・寝袋 | <input type="checkbox"/> ビニールシート |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ（ガスボンベ） | <input type="checkbox"/> バケツ・タオル |
| <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> 暖房器具・使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> 衛生用品 | <input type="checkbox"/> 紙コップ・紙皿 |
| <input type="checkbox"/> 電子ライター | <input type="checkbox"/> 救急セット・医薬品類 |
| <input type="checkbox"/> 段ボールや古新聞 | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ |

➤ その他

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 学生証 | <input type="checkbox"/> 健康保険証 |
| <input type="checkbox"/> お金（小銭含む） | |

※上記以外にも各自必要なものは準備をしておこう。

災害(地震の場合)発生直後

災害発生!! (身を守る)

学内または管理下

地震による揺れを感じたら

落ちてこない

落下物を防げるものの下へ隠れる。
教室などの机のある場所では
机の下に隠れる。

棚・ロッカー等の倒れる恐れのある
ものから離れる。
ガラス扉等は割れる恐れがあるため
要注意。

倒れてこない

移動してこない

机や椅子等の軽いものは
横滑りする可能性があるため要注意。

場所を判断し身を寄せる。

学外または管理下外

- 周囲の状況を十分に確認して「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所に身を寄せる。
- 塀や屋根瓦、自動販売機等の**落下物や転倒物、液状化や隆起するマンホール**などにも注意する。
- 公共交通機関を使用している場合は、係の指示に従う。

揺れがおさまったら

今いる場所は安全か？（状況を把握）

YES

その場所を動かない

NO

避難場所へ避難

学内または管理下

二次災害から避難するため
次のことに注意する。

素早い情報収集

ラジオ、テレビ（ワンセグ放送）、インターネット、メール、電話、また、停電時には電池式ラジオからの情報収集が有効。

想定を超える規模の災害ではマニュアルが適切ではなくなる場合があり、その時々状況を把握し、最も安全と思われる行動をとること。

臨機応変な判断と避難

避難時の注意

- ・エレベーターは使用せず、階段を使う。
- ・火災発生の場合は、タオル等で口を覆い、煙を吸わないように低い姿勢で避難する。

「大した被害はないだろう」というような危険を過小評価しないこと。想定以上の災害が起こる可能性を常に意識する。

正常化の偏見に注意

学外または管理下外

- **災害の状況をしっかり把握**する。
- 津波災害の危険がある地域では、**素早い避難行動**が必要。
- 避難先でも安全を確認し、状況によって**別の避難場所に移動**。
- 避難中は**警察や消防の指示に従う**。

家族との安否確認

家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

伝言の録音 ☎171 + 1 + 市外局番含む電話番号

伝言の再生 ☎171 + 2 + 市外局番含む電話番号

災害用伝言板サービス

NTTドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

ソフトバンク <http://dengon.softbank.ne.jp/>

au <http://dengon.ezweb.ne.jp/>

※その他のキャリアについては災害用サービスを確認しておくこと。

自宅又は大学に歩いて帰れる？

YES

自宅 or 大学へ

NO

避難場所へ避難

本学へ安否連絡

※安否連絡は教学課および指導教員へ連絡ください。

本学への緊急連絡先 kinkyu-a@nagoya-bunri.ac.jp

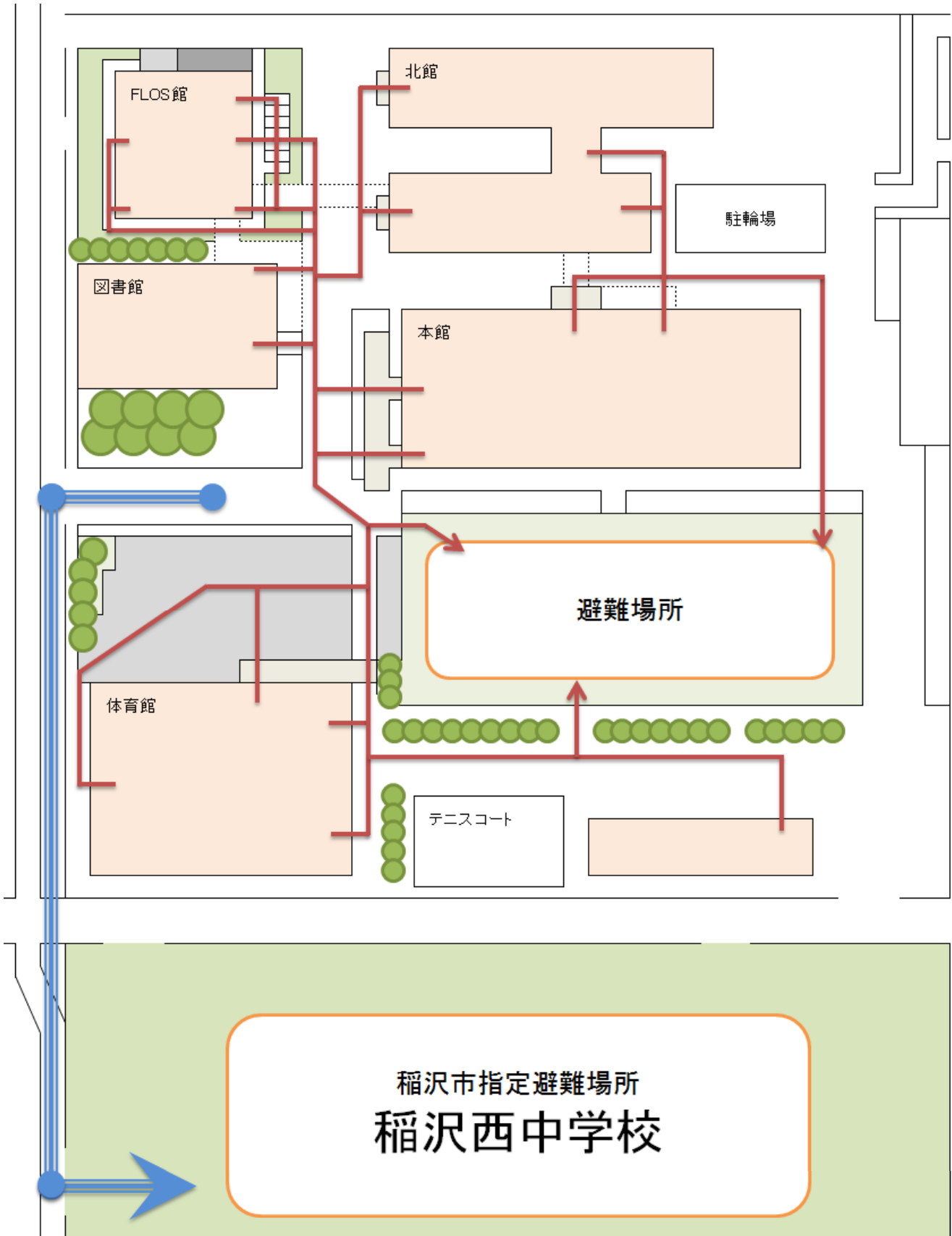
災害時の連絡手段はあらかじめ決める

大規模な地震が起こった後は、しばらく通信機器の被災や回線の混雑により、電話での連絡が難しい状況になることが考えられるため、比較的災害に強い電子メールや災害用掲示板等の情報発信手段を複線化しておく必要があります。

災害時緊急避難マップ



学内避難マップは次の通りです。



※状況によって稲沢市指定の避難場所へ移動します。